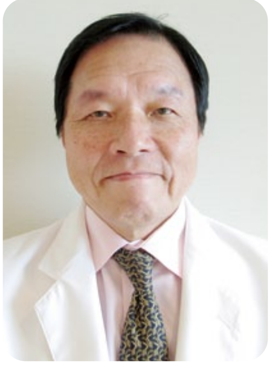
鈴蘭

鈴蘭 第5号
発行者　青木　伸弘
編　集　「鈴　蘭」編集委員会
〒763-8507
香川県丸亀市津森町219番地
TEL　(0877) 23－5555
FAX　(0877) 23－6200
http://www.jyujin-asadahp.jp
題　字　青木　伸弘

新年を迎えて

医療法人社団重仁
理事長　青木　伸弘



新年明けましておめでとうございます。２０１６年（平成28年）が始まりました。医療法人「重　仁」として２回目の正月を迎えることになります。無我夢中で始まった１年目の改革・改善も日を追うごとに、総論から各論へと進んでいます。「総論賛成、各論反対」と云う言葉は政治家に付きものですが、そんな悠長なことを云っている当院の状況ではなく、実績を積み上げ、成果を出さなくてはならない時期に突入しました。

この２年間、私が目指したものは職場での「意識改革」そのものであり、その為にメッセージとして、毎月手紙を職員に送り届けてきました。一昨年「地域連携室」を立ち上げると、同時に近隣医療機関や介護保険施設との連携を強める「地域連携ビジョン」が厚労省より提示され、施行されました。当院は急性期病棟、障害者病棟、回復期病棟、包括ケア病棟の機能別病棟を有しており、近隣医療機関より遥かに融通性が効くと思っていましたが、思いの外順調になるのに手間取っております。しかしながら、前法人からのスタッフを抱えながらのスタートは、意識改革から着実に様々な面で、改善をしていると言って過言ではありません。経営会議、職場長会議、診療報酬会議、他、法的な会議以外に経営に関する会議を各部署の責任者を集ってするようになり、全職員に参加を呼び掛けて来ました。ただ会議を増やすだけではなく、スタッフの誰もが自由に考えて、意見が活発に発言できるような組織を目指しています。ひいてはそれが病院の大きな力にもなり得ると信じています。

昨年11月に当院初の研修報告会を開催し、とても素晴らしい経験をしました。今年は、更に今後の病院にとって意味深い「勉強会」や「院内研修会」を経て、最終的に、近隣医療機関との「病診連携研究会」に発展させて行きたいと考えています。

スタッフが当院を誇れるような環境作りをしていくとともに、「本当に患者さんにとって素晴らしい病院とは？」を心に刻みながら、患者さんとの接遇に心掛けたいと思います。医局の先生方との連携も少しずつ積み上がってきており、更に積極的に前向きな対応を続けて行きたいと思っています。今年の４月には、新たな医師の招請も叶うと信じており、良い意味でのイメージチェンジが出来ればと期待をしていますし、そんな中でタイムリーに病院名が変えられる時期が来ればとも思っています。昨年の「鈴蘭」の第２号で、自治体病院で赤字ワースト１位だった「坂出市立病院」の再建の話をしました。新たな新病院が設立され、現在働くスタッフは希望に燃えていることと思われます。

当院の大きな目標として、３年以内に「日本医療機能評価機構」の審査を受けたいと思っています。私も12年前までの６年間、評価機構の調査員（サーベイヤー）として全国の病院の審査をして来ましたので、その経験から、非常にハードルが高く厳しい目標だと感じています。当院が一気に病院を改善しようとしたら、このぐらいの目標と理想を掲げて進むべきだとも思っていますが、様々な難問・課題が生じてくると思い、もう少し現状の問題を、受審を前提に対策を練る必要があると思います。ともあれ、病院の最低基準をクリアする目標を掲げ、高い基準を目指すなら、理想は高い方が遥かに遣り甲斐はあると思いますので、丸亀市の地域医療発展の為に全面的に前向きに努力をしたいと思います。今年も宜しくお願いします。

謹賀新年

旧年中のご厚情を深謝すると共に、本年も変わらぬご指導をお願い申し上げます。

平成二十八年　元旦

医療法人社団　重仁
麻田総合病院
理事長　青木伸弘
病院長　香川　勇
事務長　伊藤基光
他　職員一同

特定保健指導
～7年目を迎えて～

健診科　保健師

平成20年度よりスタートした特定保健指導は、今年で7年目を迎えています。

２０１５年7月、厚生労働省の「保険者による健診・保健指導等に関する検討会」は、「特定保健指導」による検査値への影響と医療費の適正化効果について経年的な分析を実施し、第三次中間結果を公表しました。その結果、特定保健指導を受けた人は、血糖や血圧、中性脂肪などの検査値の改善効果が3年続いたことが判明しました。また調査では、メタボリックシンドロームの人が併発しやすい高血圧症と脂質異常症、糖尿病に関連する入院外医療費などの推移も、参加者と不参加者とで比較し、参加者の方が医療費を低く抑えられることが明らかになりました。

国の特定保健指導実施率は、平成20年度7．7％から徐々に上昇してはいるものの平成25年度時点で17．7％です。このように、特定保健指導の効果は検証されている反面、実施率が未だ低いことが課題となっています。

平成25年度、当院での特定保健指導プログラム終了後の腹囲（メタボリックシンドロームの基準）の改善率は、61％でした。そして、特定保健指導実施率は30．7％でした。これは、実施率においても国全体の実施率と比べて決して低くありません。しかし、厚生労働省は２０１７年度目標実施率45％を掲げており、さらなる実施率の向上が求められています。

また、現在まで支援を行ってきて、同一該当者の次年度の継続率が低いことも課題であると私達は感じています。そのため、支援者が少しでも興味を持てるよう指導内容を適宜再検討し、試行錯誤しています。今年度の新しい試みとして、生活習慣病予防研究センターが開発した簡易版食傾向調査票を用いました。これにより、対象者の食習慣の傾向や「くせ」を詳しく分析し、より支援者に合ったアドバイスができるのではないかと考えています。

生活習慣病は何も症状がないことが一番怖いところです。そのため、生活習慣の改善の必要性を意識することはなかなか難しいです。そこで、健診後に特定保健指導を受けることによって、自らの生活習慣を振り返り、具体的な改善方法を習得し、最終的には健康に関するセルフケアができるようになって頂きたいと思っています。特定保健指導が行動変容を遂げるきっかけとなれるよう、今後もＰＤＣＡサイクルを盛り込みながら、より効果的かつ魅力的な支援が提供できるように精進したいと考えています。

リハビリテーション科からの発信

リハビリテーション科　係長　長尾　亜紀子

リハビリテーション科は、理学療法士37名・作業療法士16名・言語聴覚士5名・事務3名の総勢61名で構成しています。「地域の方々に選ばれるリハビリテーション科にする」ということを目標におき、日々患者様、利用者様やご家族の方々とリハビリテーションを通して接しております。当院リハビリテーション科スタッフは若手が多いのが特徴です。熱い想いとエネルギーでは麻田総合病院の中でどの部署にも負けないと思って頑張っております。

当院では、入院当初からリハビリテーション科スタッフが医師、看護師、ケースワーカーとともに患者様の支援に当たっており、早期からリハビリテーションを行うことでより早い症状改善を見込むことが出来ております。入院中は病期、症状に合わせてリハビリテーションを積極的に提供させていただいており、患者様やご家族の方々のご要望にお応えしながら、退院後の生活が安全かつ安心して過ごしていただけるよう、サポートいたします。そして、退院後にも症状や年齢に合わせて外来リハビリ、通所リハビリテーションあさだや訪問リハビリをご利用いただきながら、在宅生活を過ごすお手伝いもしております。

一方で、近年増加傾向にある発達障がい児のリハビリテーションにも医師と共に力を入れております。

当院のある中讃地区において、リハビリテーションが必要となられた場合には安心してご利用いただけるスタッフ数と技術を兼ね備えておりますので、何かご不安やご不明な点がございましたら、お気軽にお問い合わせください。

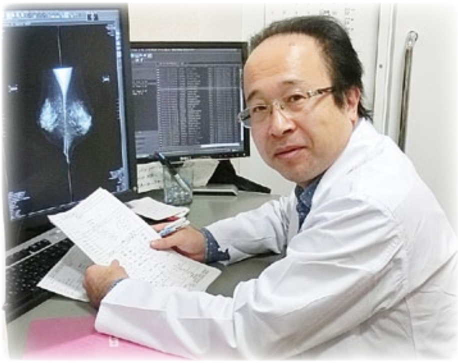
医療技術は日々進歩しています。私たちは医師や看護師等と共に学びながら、今以上のリハビリテーションが常に提供できるよう、努力していきます。

今後も地域の方々に満足していただけるよう頑張っていきますので、どうぞ宜しくお願い致します。

この夏、芸能人の北斗晶さんが、記者会見で乳がんであることを発表しました。この告白は、子育て世代の女性にとって衝撃的で、今までにも増して、女性の間で乳がんへの関心が高まり、当院への問い合わせも急激に増えています。

そこで、当院の乳腺甲状腺外来を担当していただいております田中医師に、乳がんについての投稿を依頼しました。

私の携わってきた乳腺甲状腺診療



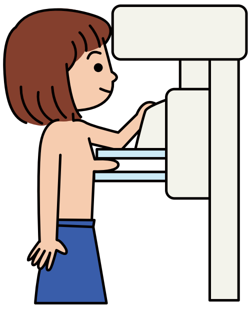
川崎医科大学乳腺甲状腺外科准教授
乳腺甲状腺専門医　田中 克浩

まず自己紹介です。丸亀高校出身で昭和63年に徳島大学医学部卒業以来、第２外科および関連病院で研修、研究を継続いたしておりました。縁あって、平成８年４月に川崎医科大学乳腺甲状腺外科講師として赴任して今年で19年になりました。この間は徳島大学時代の専門性をさらに高めるべく主として甲状腺・副甲状腺の研究、教育および臨床に関わってまいりました。この結果、乳腺専門医、内分泌外科専門医、甲状腺学会認定専門医を取得しましたし、学会活動も甲状腺関係で平成10年より内分泌外科学会評議員、平成20年より日本甲状腺外科学会評議員、平成23年より日本甲状腺外科学会理事、平成24年より日本内分泌外科学会理事に就任させていただいております。中四国地区で両学会ともに理事は私だけです。

私が丸亀出身であることを縁に診療をお願いいただき、当初は二名で木・金を担当してきました。乳腺の検診と２次精査です。その後、診療体制に若い先生も加わってくれ、ほとんどの曜日で当科の外来を行うことができています。ご存知のように平成10年に乳がんが女性の癌の罹患率１位になって以来、専門性を駆使し、早期発見、早期治療が重要になっています。検診には今でも触診、マンモグラフィ（40歳以上）またはエコー（若い人の発見に有用な可能性があります。）を用いて行っており、モダリティとしては以前と何も変わりません。しかし、各機器の精度向上が目覚ましく、最先端の検診および２次精査を行える条件であると考えています。２次精査では以前に増して、針生検での組織診断を多用するようになっています。当科の診療に携わっている医師はすべてマンモグラフィ精度管理委員会の認定試験での資格を得ており、５年ごとの更新も随時行っています。当院で発見した乳がん患者は、ほとんどの人が川崎医科大学乳腺甲状腺外科で手術をしていますが、それ以外は香川労災病院での通院放射線治療、補助療法の抗悪性腫瘍薬による治療は当院で継続しています。

検診などで発見された甲状腺がんも同様に、手術は川崎医科大学でしていますが、その後の経過はこちらの外来で行っています。

最近の新しい治療を一つ。甲状腺がんには有望な全身治療は放射性ヨウ素を使用した内用療法以外、長らくありませんでしたが、甲状腺がんにも有望な全身療法である分子標的薬が昨年と今年で計２つ登場しています。適切な投与時期、有害事象管理に専門性を出し、手術以外の治療がなかった患者さんに対しても生存期間の延長やQOL改善ができればと考えています。医学は進歩しますので、当院赴任時代にはなかった進歩した治療や検査を常に提供すべく努力してまいります。



人間ドックのご案内

快適な人生を送るために、年に一回は総合的な人間ドックを受診しましょう。当院では下記の自治体の主催する人間ドックが受診できます。

- 善 通 寺 市／２月末まで
- 多 度 津 町／来年度より開始
- 丸　亀　市／３月末まで
- まんのう町／１月末まで
- 三　豊　市／本年度終了

来年度も上記自治体で実施されます。今年度、間に合わなかった方も、来年度はぜひご検討ください。詳しくは、お住まいの自治体へご相談ください。

迎春

職員の中から選ばれた年男・年女です。
皆様の心と笑顔の支えになりたいといつも願っています。
今年もよろしくお願いします。

多くの職員の中より年女に選んで頂き有り難うございました。今年は、麻田病院に就職し10年という節目の年になります。いつまでも初心を忘れず、成長していきたいと思います。

看護部
矢野　美紀

麻田総合病院に就職して早7年が経ちました。色々な出来事が有りましたが、今まで以上に、患者様が「おいしい」と言って頂ける食事を、栄養科一丸となって作っていきたいと思います。

栄養科
橋本　豊

麻田総合病院に就職して一年が過ぎました。今年は、昨年よりも知識・経験を増やし、患者様への訓練内容の向上を図っていきたいです。

リハビリテーション科
山地　裕子

入職し4年目になります。今年の目標は昨年より成長することです。仕事はもっと視野を広げられるように。分からないことを分からないままにしない。家事は掃除をもっと丁寧にする。魚料理が上手になりたいなど。何か一つでも自信を持って「できる！」と言えるようになりたいです。

看護部
田中　由加

利用者様にとって職員はご家族の次に安心できる存在であり、施設はご自宅の次に居心地のよい場所でなければいけないと考えています。これからも、利用者様と、その方を支えているご家族の皆様が、笑顔で過ごして頂けるよう初心を忘れずに日々を務めていきたいと思います。

通所リハビリテーションあさだ
小山　越子

3度目の年女になりました。今年は初めての出産も控えており、楽しみと不安でいっぱいです。心穏やかに楽しく子育てに頑張りたいです。

看護部
大林　容子

麻田総合病院に就職してまだ、3ヶ月しかたっていません。右も左もわからずで、皆さんに迷惑をかけることも多々あります。早く仕事に慣れ一人前として仕事ができるようになりたいと思っております。

看護部
畑山　明美

指示されるままに仕事をするのではなく、創意工夫を試みながら仕事にチャレンジする気持ちを持ち続けていきたいと思います。

財務経理課
饗庭　久美子

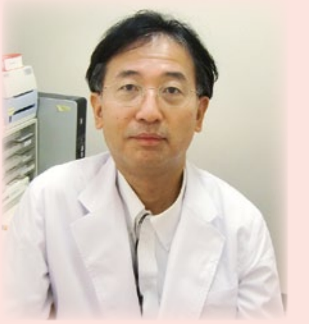
昨年は仕事と育児の両立に奮闘の一年でしたが、職場のご理解のおかげでここまで続けてくる事が出来ました。薬剤師として、母として、まだまだ未熟ではありますが、常に前を向いて成長していきたいと思います。

糖尿病センター
古林　美貴

日々、子育てと仕事で忙しい毎日を過ごしています。周りのスタッフの方々に支えていただきながら、ここまでやってこられました。今年も体調管理に気を付けて、初心を忘れず、日々成長できるように頑張っていきたいと思います。

看護部
瀬尾　怜子

婦人科検診紹介



川崎医科大学
産婦人科学１
講師　村田 卓也

はじめまして。川崎医科大学の産婦人科の村田卓也です。婦人科検診は、週2日を川崎医科大学の医師が交代で担当しています。瀬戸内海を渡ってきています。地域の医療のレベルアップをできるだけ図りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

『ロコモ（運動器）検診』始まります！

「ロコモ」あなたは大丈夫ですか?

●「メタボ」の次は「ロコモ」

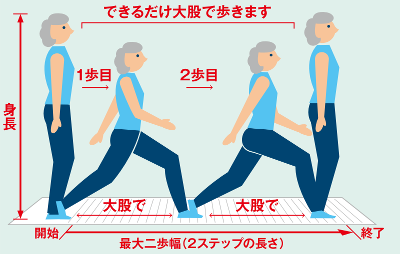
「ロコモティブシンドローム（略称：ロコモ）とは、運動器症候群ともいい「骨・関節・筋肉・神経といった運動器の障害により移動機能の低下をきたした状態」をいいます。進行すると介護が必要になるリスクが高くなります。二〇二五年には、国民の五人に一人が後期高齢者となると推測され、ロコモ対策は我が国の課題となっています。

当院では、平成二十八年度に向けて、「ロコモ（運動器）検診」を新たに準備中です。

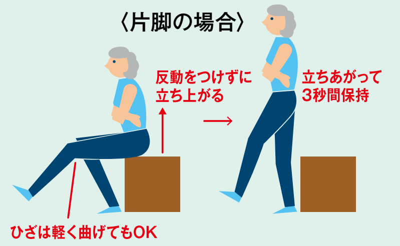
「ロコモ度テスト」をはじめとした下記のような検査により、あなたの「現在の状況」を判定します。整形外科専門医受診が必要な方には、当院の整形外科をご紹介致します。

検査の内容としては次のような内容を検討中です。

- 問診　●身体計測
- 体組成検査…筋肉バランス
- 腰椎Ｘ線検査…脊椎椎体骨折の有無
- 骨密度検査（ＤＸＡ法）
- ロコモ度テスト…立ち上がりテスト
  - ２ステップテスト
  - ロコモ 25
  - （問診による）
- 医師の判定（結果説明）
- 運動／食事アドバイス



2ステップテスト



立ち上がりテスト

公益社団法人　日本整形外科学会　ホームページより

職場長の夢

放射線科
係長　穴吹 純平

入職して早いもので15年目が終わろうとしています。入職当初に比べると現在では自分の業務に関する内容も大きく様変わりしました。まさに今は青木理事長の毎月のお手紙からも読み解けるように「職場長としての責務を果たす」＝「行動する」というのが求められていると考えます。

近年、放射線関連団体による専門技師の認定制度が次々に設立され一種のスペシャリストの育成に力をいれています。また法改正による業務拡大にともない、チーム医療を担う役割が大きくなろうとしています。このような医療動向につねにアンテナをはり、一つでも新たな提案が「行動」という形で示せるよう努力していきたいと思います。それと職場長としての資質をさらに身につける為には、他部門とのコミュニケーションは必須だと思いますので、今後ともみなさんどうぞよろしくお願いします。

●まずは「ロコチェック」！●

ご自分のロコモ度は、ロコチェック※を使って確かめることができます。

７つの項目はすべて、骨や関節、筋肉などが衰えているサインです。一つでも当てはまればロコモの心配があります。

（※整形外科学会公認　ロコモティブシンドローム予防啓発公式サイトより）

- ☐ **1.** 家の中でつまずいたり滑ったりする
- ☐ **2.** 階段を上がるのに手すりが必要である
- ☐ **3.** 15分くらい続けて歩くことができない
- ☐ **4.** 横断歩道を青信号で渡りきれない
- ☐ **5.** 片脚立ちで靴下がはけなくなった
- ☐ **6.** ２kg程度の買い物をして持ち帰るのが困難（1ℓの牛乳パック2個程度）
- ☐ **7.** 家のやや重い仕事が困難である（掃除機の使用、布団の上げ下ろしなど）

いかがでしたか？

40～50歳代は「ロコモ予備軍」、60歳以上は「ロコモ世代」です。詳細が決定しましたら、改めてご案内します。

研修報告会

去る11月13日に第1回院内研修報告会が開催されました。これは様々な専門分野の研修会に参加したスタッフが、そこで得た新しい技術や知識を研修に参加できなかった人達に伝え、情報を共有しようという試みで始まったものです。各部署の有志で結成されたプロジェクトチームのメンバーが中心となり、初めての事で戸惑いながらも意見を出し合い少しずつ形にしていき、無事当日を迎えることができました。

報告会当日は、多くの職員が入れ代わり立ち代わり会場を訪れ、時発表を熱心に聞き入っており、時には質疑応答で熱い議論が展開される等、非常に有意義な報告会になりました。

今後この報告会が、〈最高・最新・最善の医療の飽くなき追求〉という病院の理念に少しでも寄与していけるものになる様、職員が積極的に参加し、回数を重ねる毎により良い報告会になっていければと願います。

システム情報課　米丸　貢

第一回研修報告会プログラム

- 看護必要度
- ボイタ法セラピスト講習会
- 摂食嚥下リハビリテーション
- 認知症の理解とケア
- 認知症の人を理解する手がかり
- 適切な介護記録
- 賃金制度見直し・給与改定の進め方
- ロコモ健診
- 2016年の診療報酬改定
- 呼吸器について
- 四臨協微生物検査研修会
- X線CT認定技師講習会
- 検体検査研修会
- マイナンバー制度

忘年会

美味しい食事に賑やかな余興、そしてお楽しみの抽選会。250名を超える職員の参加で、今年も大盛況でした。2015年の総括をすると共に、今年1年が飛躍の年となるよう、祈念しました。

スタッフリレー Vol.2

氏　名　西森 さなえ(写真右)

所属部署　地域医療連携室　主任

前回 髙橋さんからの質問

Q 今度何を一緒に食べに行きますか？

A 近日中にパスタを一緒に食べに行きましょう♪

髙橋さんからたすきを預かりました。地域医療連携室医療ソーシャルワーカー(MSW)の西森です。

私は、昨年8月地域医療連携室配属になりMSWをさせていただいております。MSWとして、患者様やご家族様のさまざまな悩みや問題を社会福祉の視点から問題解決に役立てられるよう相談援助を行っております。また、院内外問わず多職種連携が円滑に行えるよう調整を行っております。

次は、いつも明るくて優しい「あの方」にたすきを繋ぎたいと思います。

私から「あの方」への質問

おすすめスイーツを教えて下さい♪

新人紹介

総務課
石川 直美さん

9月より総務課に勤務しています石川直美と申します。

医療機関での勤務は初めてです。予想以上に幅広い業務及び対応が求められる総務の仕事について、改めて大変さを感じております。

前線で働く職員の方々が専念できる環境を目指し、少しでもお役に立てればと思っております。

写真の通り、顔も心も?まあるい私ですが、仕事もまあるく収められるよう、早く仕事に慣れ、お役に立てるよう邁進しますので、ご指導の程、宜しくお願い致します。

互助会の旅行に参加しました

まず10月末に引率者として『高知・伊勢エビ』旅行へ。快晴のなか古き良き商店街での買い物や日本酒の試飲、絶品の伊勢エビ料理を堪能し、満腹でバスに揺られながら太平洋の水平線を見つつ寝る…素晴らしい旅行でした。

そして12月中旬には笑いを楽しむために『大阪・よしもと新喜劇』へと。

こちらは朝早く(5時)集合し、爆睡のまま大阪へ。さすがはお笑いの本場・吉本新喜劇。これでもかっ！と続く漫才・落語、そしてメインの新喜劇。笑いの連続にお腹が痛くなるほどでした。笑い疲れて帰りもやはり爆睡です。

身も心もリフレッシュでき、これからの業務もより一層頑張っていきたいと思いました。

橋田　進

10月 高知旅行

12月 大阪旅行

中学生の職場体験

当院では近隣の4校の中学校の職場体験の受け入れを行っています。

将来、医療関係や看護師になる希望を抱いて体験学習に臨む生徒さん達に少しでも多くの感動体験をして頂こうと、受け入れ部署では丁寧な指導を心掛けています。

また体験後にお寄せいただく生徒さん達からのお礼状に職員もパワーをいただいております。

今後も多方面で地域の方々にご利用いただけるよう努力していきたいと思います。

職場体験2日目
放射線科での体験風景

編集後記

よく「好きな仕事がしたい」「いまよりいいところがあるかもしれない」という声を聞きます。そんなところは簡単に手に入りません。それより今自分に与えられた仕事を好きになる努力をすることが近道なのです。自分で考えて創意工夫をして成果が出れば「楽しく」なります。ブツブツ文句を言って仕事をしていたのでは「楽しく」ありません。目の前にある仕事に必死で打ち込むと雑念が消えていきます。その積み重ねで、知らず知らずのうちに自分自身の人間性が高まってくるのです。そうしていると仕事が好きになるし、「楽しく」なってきます。「聞いて、考えて、対話をして、気付いて、自分の行動に反映させる」そんな年にしたいものですね。

加藤　繁秋